

平成30年度

第3回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日 時 : 平成30年12月27日(木)
13:00~15:00

場 所 : 関東森林管理局
東京事務所 会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

(1) 木材の需給動向について

- ① 木材の需給、価格等の動向
- ② 関東局における国有林材の供給状況

(2) 国有林材供給調整の必要性について(審議)

3. 閉 会

平成30年度 第3回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一
福島県森林組合連合会 常務理事	遠藤 誠寿
栃木県林業木材産業課 木材産業担当 課長補佐	川上 晴代
栃木県森林組合連合会 木材流通課 課長	栗原 直人
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 廣興
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	楡井 真一
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究コーディネーター(地域イノベーション推進担当)	堀 靖人

関東森林管理局

官 職	氏 名
森林整備部長	佐藤 肇
資源活用課長	古澤 茂昌
企画官(木材需給対策)	渋谷 英夫
素材供給係長	齋藤 博
供給計画係長	金澤 威一郎

1. 開催日時・場所

平成30年12月27日(木) 13:00~15:00 (関東森林管理局 東京事務所会議室)

2. 検討結果

需給動向や各委員からの状況報告等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する必要はない。

3. 概要(状況報告等)

(1) 需給動向について

- 静岡県では、12月に入り出荷量・販売量・在庫量とも少しずつ増加している。入荷量は例年並みに戻ってきたが、販売量も増加しているため在庫量の増加は緩やかである。来年初頭にかけては、丸太の出材は増加傾向で推移すると考えられるが、地域全体の出材量が増加していない中、5月以降の丸太確保が心配される。
- 福島県では、スギ柱取り材の高騰が継続していたが、12月下旬より弱含み感が見受けられ、長期的には保合で推移すると思われる。製材品の価格は、目立った動きはなく安定している。
- 栃木県では、素材価格について製材業者の手持ち不足感が強く高値で推移している。11月頃から例年並みに丸太の出材量が増えてきたが、製材工場側の不足感は解消されていないのが現状である。
- 群馬県では、市場に出荷されている丸太が非常に少なく、特にスギ材が不足している。12月上旬までは価格が上昇していたが、現在は値下げ傾向に転じている。今後の入荷量は少なめで推移すると思われる。

(2) 主な意見

- 山からの出材を増やし、原木市場を安定化させ、製品加工を落ち着かせる必要があるが、現時点では企業の資金体力勝負となっており、中小企業の廃業が心配される。中小企業は、引合いの少ない原木の引受先となっていることから、国産材の全体的な需要拡大にあたり配慮する必要がある。
- 近県を含めたバイオマス燃料の動向が活発化していることから、流通の変化が起きている。
- 来年、消費税増税が予定されているが、前回の増税時に製品が間に合わず、国産材の信用が失墜した経緯があるため、行政の施策及び国有林の機動的対処が望まれる。
- カナダ産の2×4用SPF材などの市況は乱高下が激しいが、国産材化すれば安定した価格になる。
- 皆伐の増加に伴い、年々植付・下刈作業が増加し、伐採作業員の確保が追いついていない。このことから、伐採後の再生林が困難となっており、夏季に出材量が増加しない要因の一つとなっている。
- 6~8月の暑い季節の厳しい環境の中で下刈はできない。数年計画で、下刈せずに山をつくる方法を考えなければ再生林は不可能である。